

令和6年10月23日（水）

第10回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 令和6年10月23日（水）午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 丸 智彦 委員 蒲田 知子  
委員 村松 弘康 委員 新山 訓代  
委員 中村 通宏
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員  
教育総務部長 山田 和夫 生涯学習部長 菊地 統  
生涯学習部次長兼文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 辻 史郎  
生涯学習部参事兼鳥の博物館長 森田 康宏  
総務課長 高橋 純 学校教育課長 中野 直美  
指導課長兼小中一貫推進室長 森谷 朋子  
少年センター長 川本 将多 生涯学習課長 斉藤 幸弘  
図書館長 中山 千草 学校教育課主幹 齊藤 優  
教育相談センター係長 岡田 恵理子
6. 欠席事務局職員  
教育相談センター所長 遠藤 美香

午後2時00分開会

○丸教育長 ただいまから令和6年第10回定例教育委員会を開会いたします。

---

会議録署名委員指名

○丸教育長 日程第1、我孫子市教育委員会会議規則第31条の規定により、会議録署名委員を指名いたします。中村委員にお願いします。

---

議案第1号

○丸教育長 日程第2、議案の審査を行います。

議案第1号、教育委員会の点検・評価報告書の提出について、事務局から説明をお願いします。

○高橋教育総務課長 議案第1号、教育委員会の点検・評価報告書の提出についてご説明させていただきます。

まず提案理由ですが、令和5年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので議会に提出するものです。

それでは、別冊の「教育委員会の点検・評価報告書」をご覧ください。

まず1ページでは、本報告書が「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき作成されていることや、作成に当たり、「令和5年度教育委員会教育行政施策」及び「令和5年度我孫子市教育施策」の主要施策が基となっていることを記載しています。

本報告書の作成に当たり、川村学園女子大学教育学部児童教育学科の加藤美由紀教授に知見をいただいています。

次に2ページ以降ですが、令和5年度の「Ⅲ 主要施策の点検・評価と課題」について、各課が所管する施策について点検を行い、その評価と課題につ

いて整理したものを学校教育の分野と生涯学習の分野、それぞれについて記載しています。施策ごとの点検及び評価と課題についての説明は省略させていただきますが、昨年度の変更点から引き続き、「点検」の欄に表を取り入れ、目標値と実績値との比較を分かりやすくしています。この例として、4ページのように目標値と実績値を記載することで、視覚的にも分かりやすくしています。

次に38ページ以降ですが、こちらは令和5年度の教育委員の活動状況を記載しています。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わったため、学校行事等への参加がコロナ以前のように戻ることができました。

次に、42ページをご覧ください。こちらは学識経験者の意見を記載しています。昨年 of 報告書から引き続き、川村学園女子大学の加藤教授に知見をいただいています。

内容につきましては、「1 点検・評価の基本的な仕組みについて」では、我孫子市全体として行われている事務事業評価の結果を基本とした上で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づく点検・評価が行われており、十分な方法で行われているとのご意見をいただいています。

次に、「2 点検・評価の内容について」では、各課が取りまとめた主要施策の点検及び評価と課題について、重点施策ごとにご意見をいただいています。

43ページをご覧ください。主要施策1「子どもの創造性と自主性を育む教育の充実」。

(1)「学校教育の充実」では、「前年度から導入された目標値・実績値によると、令和5年度も各項目において高い実績値が維持されている。」との評価、あと、幼保小連携・接続の実践、交流回数が増加していることを評価し、「今後も継続した交流活動の実施が望まれる。」といったご意見、また、ALTが全小中学校に配置されたことについて、「教育の機会均等を保持する点でも望ましい事である。」といったご意見をいただいています。

次に、(2)「地域に根ざした教育の充実」では、学習図鑑「ふるさと手賀沼」のデジタルアーカイブ化の導入を目指した検討について、「過去の資料を含めてタブレットで閲覧することが可能となり、価値のあることと考えられる。」といったご意見、また、学生数の減少による学習支援や学校行事への支援を行うボランティアが減少し、今後も同様の問題が続くことが考えられるため、「小中学校からの要請が増えている現状を踏まえつつ、ボランティアの依頼先を拡大、検討する時期にあると考えられる。」といったご意見もいただいています。

次に44ページをご覧ください。(3)「子どもの成長・自立への支援」では、「教育・発達相談継続ケースの利用者の満足度は、前年度の85.0%から94.0%に増加している。」ことや、『校内教育支援センター指導員』を全中学校及び小学校3校に配置し、不登校になった児童生徒に対して教育支援センターや教育相談センターの教育相談に繋げる支援の継続が行われ、丁寧な対応がされている。」といったご意見、また、国際理解教育の支援体制について、「日本語習得に加え、これまでの学習の内容や学習する学年の違いから生じる困難さもあると考えられるため、そうした困難さを考慮に入れた支援が望まれる。」といったご意見をいただいています。

次に、主要施策2「市民が生涯にわたって生き生きくらすための学習体制の充実」。

まず(1)「生涯学習環境の充実」では、公民館の学級・講座、図書館の年間貸出利用者数及び鳥の博物館の館内啓発イベントなどにおいて、高い利用実態や満足度について評価をしていただき、「生涯学習を行う機会の提供の面では充実しているが、老朽化した施設や設備の計画的な更新が現状として挙げられている。」といったご意見もいただいています。

次に45ページをご覧ください。(2)「スポーツの振興」では、「令和5年

度の注目すべきものとして、プール開放事業を屋内民間プールへ活用したことを挙げて、「学校施設の老朽化や熱中症警戒アラートの発令、感染症等の影響により監視員が集まらない等の課題が解消され、学校開放の利用人数、プール開放の利用人数の増加に寄与していることが見て取れた。」とのご意見をいただいています。

次に（３）「文化芸術活動への支援と地域文化の継承」では、「映画ロケ地となった旧井上家住宅の映画撮影状況のパネル展、我孫子東高校茶道部によるお茶会」について、「工夫が見られる。」といった評価をいただき、「我孫子市の貴重な歴史について、引き続き周知に努めることが望まれる。」とのご意見をいただいています。

最後に、「３ 点検・評価の妥当性について」ですが、「我孫子市教育委員会は、教育行政の基本方針を「個性を尊重し、互いに学び合う、学校教育並びに生涯学習の推進」とし、これに基づき主要施策を策定し、学校教育及び地域における活動・事業に取り組んでいる。点検・評価は、この主要施策の各々について行われる。各点検・評価は、実施された施策に対して具体的に行われており、内容も適切かつ妥当であると考えます。令和５年度は、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行したことを受け、人々の動きが以前の状況に戻ってきたことが各活動の利用実態からも示されている。そうした状況の中、施設の老朽化に対する改修・整備が計画的に進行していることが報告されている。概して、前年度から継続して高い実績値を示す項目が多く、また、過年度や前年度の点検から継続した対応や、課題に対する発展的対策が講じられていた。具体的には、幼保小連携・接続の実践、交流回数の増加や、教育相談センターのアドバイザーによる学校の相談内容に対応した支援、校内教育支援センター指導員による児童生徒への対応などの継続した教育活動、ALTの全小中学校配置、学校施設の老朽化や熱中症対策に対応した民間の屋内プールの開放である。こ

これらの省察から導き出された対応や対策は評価されるものであり、主要施策に対する点検・評価は今後の活動に活かされることが期待できるものである。」と評価していただいています。説明は以上です。

○丸教育長 ありがとうございます。

それでは、これより質疑を許します。質疑があれば挙手をお願いします。

44ページ、(3)「子どもの成長・自立への支援」の「国際理解教育の支援体制」に関して、今、外国人の子どもたちが多く入っていますが、通訳を使っている状況、語学によっては足りないのか等を教えてください。

○岡田教育相談センター係長 現在、中国語、スペイン語、英語の通訳、それからスリランカなどの通訳も少しはできるという方が登録をしていますので、通訳の人数そのものは足りている状態です。ただ、新学期又は新年度に入り、転出入が多くなってくると、少しの不安があるような状況にあります。

○丸教育長 わかりました。ありがとうございます。

ほかにございますか。

○蒲田委員 今のお話に関連してなのですが、母国語が日本語ではない方々の支援をなさるに当たり、生活習慣等に違いがあったりするかと思うのですが、その辺りの指導はどうなっているか教えてください。

○岡田教育相談センター係長 生活習慣については、やはり学校が主となって教育相談をしながら進めますが、通訳の中には、日本との習慣の違いについて、一緒に学校生活をする中で説明をしています。また、A I R Aの日本語指導も入っていますので、日本語指導の中でもその辺りについてお話をしています。

○蒲田委員 ありがとうございます。日本語が母国語ではない方々の学習支援は、すごく大事だと思います。小学校にいたお子さんで、転校してきた子が外国語しか分からない、文化が違うということで、学校に行けなくなっているという実態がありました。やはりそういったところをきめ細やかに我孫子市は指

導しているというのがもう少しわかると安心できるかなと思いました。

○岡田教育相談センター係長 今後に活かしていきたいと思います。ありがとうございます。

○丸教育長 ほかにございますか。——よろしいですか。

それでは議案に対する質疑を打ち切ります。

---

○丸教育長 それでは、これより採決いたします。

議案第1号、教育委員会の点検・評価報告書の提出について、原案に賛成の委員は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

○丸教育長 挙手全員と認めます。よって議案第1号は可決されました。

---

### 諸 報 告

○丸教育長 日程第3、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項が5点ございますので、こちらから説明をいたします。

それでは、まず初めに、我孫子市小学校陸上競技大会、葛南地区中学校駅伝大会、東葛飾地方中学校駅伝競走大会、千葉県児童生徒・教職員科学作品展の結果について森谷指導課長、お願いいたします。

○森谷指導課長 まず、小学校陸上競技大会についてです。10月16日に松山下公園陸上競技場にて、第59回我孫子市小学校陸上競技大会が行われました。前日まで天気心配がありましたが、当日は曇りで、暑すぎない天気に恵まれ、6年生の選手たちは陸上競技場での大会に嬉しさと緊張の面持ちで臨みました。各校の応援席からの声援やスタンドからの観覧者の拍手が選手の力になったと思います。残念ながら新記録は出ませんでした。最後の4×100

mリレーまで選手たちは全力で競技しました。大きな怪我人や病人もなく終えることができました。

次に、10月3日に柏の葉公園総合競技場で行われました第33回葛南地区中学校駅伝大会についてです。この大会で上位5校までに入った学校は、11月2日に柏の葉公園総合競技場で行われる県大会に出場します。男子の部では、久寺家中学校が優勝、我孫子中学校が2位、白山中学校が5位に入賞しました。女子の部では、久寺家中学校が2位、湖北台中学校が3位、白山中学校が4位に入賞しました。県大会で優勝した学校は、12月19日に滋賀県で行われる全国大会に出場することができます。また、上位5校が12月1日に山梨県で行われる関東大会に出場することができます。

次は、10月19日に行われました第76回東葛飾地方中学校駅伝競走大会についてです。今年は松戸市民劇場をスタートし、野田市総合公園陸上競技場がゴールでした。熱戦が繰り広げられた結果、我孫子中学校が1位、久寺家中学校が3位という素晴らしい結果でした。他の4校の選手たちも学校代表として最後まで頑張りました。10月とは思えない夏のような気候の中、出場校75校、全てが走り切ることができました。

最後に、千葉県児童生徒・教職員科学作品展についてです。まず、9月14日、15日に我孫子市小中学校科学作品展が開催されました。夏休み中に児童生徒が意欲を持って取り組んだ論文、科学工夫作品、標本の力作が各校から集まり、見学者は2日間で1,368人でした。その中から市の代表になった作品10点が千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品されました。そのうち2点が入賞しましたので、報告します。科学論文の部では、高野山小学校5年・野本涼誠さんが優良賞、我孫子第四小学校3年・鈴木結莉乃さんが佳作を受賞しました。

○丸教育長 ありがとうございました。

ご質問等はよろしいですか。

それでは続きまして、ジャパンバードフェスティバルについて及び鳥の博物館の休館について、森田鳥の博物館長お願いいたします。

○森田鳥の博物館長 ジャパンバードフェスティバル2024は、11月2日、3日の2日間でジャパンバードフェスティバルが今年も開催されます。昨年度に引き続き、手賀沼親水広場をメイン会場として開催します。ジャパンバードフェスティバルは、「人と鳥の共存をめざして」をテーマに、鳥や自然を愛する人たちが一堂に会する年に一度のお祭りで、行政・NPO・学生・市民団体などによる鳥・自然環境に関する研究・活動の発表、鳥の彫刻・絵画・写真展や、子ども工作教室、船上バードウォッチングやスタンプラリーなど、お子様からご年配の方、また鳥にすごく興味のある方やこれをきっかけに鳥に興味を持っていただけの方、これらの方も十分にお楽しみいただけるようなイベントとなっています。ジャパンバードフェスティバル開催期間中、鳥の博物館では、入館料を無料とするほか、イベントとして「てがたん in JBF2024」及び鳥学講座を開催します。鳥学講座については、毎年好評を博していますが、今年度は「リュウキュウコノハズクの生活を追いかけて」と題して、早稲田大学の澤田明晃さんをお招きし、お話していただくこととなっています。このほか、鳥の博物館の館内でも子ども向けのイベントとして、鳥の工作や鳥博クイズも開催する予定となっていますので、多くの方にご来場いただければと思っています。

続いて、鳥の博物館の休館についてです。

鳥の博物館では、屋上外壁換気設備及びエレベーターの更新工事に伴い、JBF終了後の11月5日から3月末までの予定で休館をいたします。工事期間中については、職員の執務室も使用できなくなるため、11月20日から1月末までの間は、市役所本庁舎脇のプレハブを仮事務所として執務を行う予

定です。休館期間中についても、昨年度同様に屋外でのイベントやオンラインでのイベントは実施していく予定です。

○丸教育長 ありがとうございます。

それでは、鳥の博物館についてご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。——よろしいですか。

続きまして、「我孫子市民図書館秋のたより」について、中山図書館長、お願いいたします。

○中山図書館長 今年度は、図書館の目玉である電子図書館サービスについてのお知らせをしています。また、「秋のたより」の見開きページと「たんた新聞の号外」については、現在、大河ドラマで源氏物語が取り上げられており、源氏物語を始めとする古典文学への関心が高まっているため、「平安文学を深めよう」というテーマで展開させていただいています。また、より多角的に平安文学を楽しんでもらえるよう、源氏物語や枕草子といった物語そのものだけでなく、平安時代の暮らしぶりや文化を知ることができる本も紹介しています。

○丸教育長 ありがとうございます。ご質問等があればお願いします。

——よろしいですか。

それでは最後に、第23回めるへん文庫の応募状況について、辻文化・スポーツ課長、お願いいたします。

○辻文化・スポーツ課長 第23回めるへん文庫の応募状況についてです。

募集期間は7月1日から9月9日までの約2週間、応募総数は127編、うち市内が89編、市外が38編となっています。内訳は、小学校52編、中学校59編、高等学校16編になりました。

このうち市内の小学校は、6年生から21編寄せられましたが、うち16編が我孫子第二小学校からでした。現在小学校6年生の国語では、「あなたは作家」という物語を創作する授業がありますが、我孫子第二小学校では、

このカリキュラムを7月に実施したため、子どもたちが作った物語をめぐるへん文庫に応募していただけたのではないかと分析しています。カリキュラムは学校が決定するものですが、文化・スポーツ課としては、この流れをより多くの学校に広げていただければと考えています。

次に中学校ですが、通常、比較的多い市外からの募集が少し少なくなってしまった状況にあります。こちらについては、本来、4月入札でめぐるへん文庫の事業者を決定する予定だったのですが、不調となってしまったため、動き出しが1か月遅くなってしまいました。このため、市外からの応募数が減ってしまったと分析しています。来年度は不調にならないよう、この文庫事業の周知に努めていきたいと考えています。

最後に、高校生の部では、初めて我孫子高校の生徒から2編の応募がありました。市内には4つの高校がありますが、今まではチラシを郵送で届けるだけでした。今年は担当者が応募チラシを持って、各学校の図書委員会など本や文学が好きな子どもたちに配布してほしいと直接校長先生にお願いをしに参りました。その効果が表れ始めていると考えています。

また、最近の傾向として、遠方の地域からの応募が増えています。これは昨年度より全国で文学賞公募などを受託している民間事業者を委託した結果、PR効果が現れたとみています。本年3月に改定した「我孫子市子どもの読書活動推進計画（第二次）」において、「読書活動が書くこと・創造すること・自己を表現する力の育成へとつながっていくことを強く願う」とありますが、めぐるへん文庫に参加する子どもたちが増えることによって、読書活動へ繋がる好循環が生み出せるよう、今後ともこの事業を通じて創作好きな子どもたちを増やし、積極的に子どもたちの活躍の場を提供していきたいと考えています。

○丸教育長 ありがとうございます。ご質問等があればお願いします。

6年生の国語の授業「あなたは作家」を実施した中で、応募が出ているの

であれば、これは他校にも伝えた方がいいですね。学校で習ったことがそのまま活かされ、子どもたちのためになる。ぜひ教育総務部の方でも協力していきましょう。

——よろしいですか。

それでは、ないようですので、これより事務報告に対する質疑に入ります。

質疑があれば挙手をお願いします。

○蒲田委員 事務報告7ページ、「市内小学校特別支援学級体験会」をそれぞれの学校で開催したということで、各小学校で1校につき3回も実施していただき、きめ細やかな対応、すごくありがたいなと思っています。小学校の体験入学は具体的にどれぐらいの時間を費やしているのか、どんなプログラムで行っているかを教えてください。

○岡田教育相談センター係長 小学校の体験会については、各校とスケジュール調整をして、大体の学校が午前中、1時間目から3時間目辺りの時間で、在校生も授業をしている中に、体験を受ける幼稚園・保育園のお子さんが入っています。現在、小学校入学に当たり体験を申し込んでいるおさんは、141人いるため、例年よりもたくさんの学校、そして多くの時間で、市内の小学校又は中学校にも協力してもらっているところです。

○蒲田委員 ありがとうございます。それから、体験するお子さんに合わせて、言語聴覚士の方が入っている学校がいくつかあるのですが、お一人の方がそれぞれのお子さんを対応しているのでしょうか。

○岡田教育相談センター係長 発音に課題のあるお子さんに関して又は聴覚に課題のあるお子さんに関しては、教育相談センターの会計年度任用職員の言語聴覚士1名が必要に応じて、体験の中で一緒に参加しています。

○蒲田委員 ありがとうございます。保護者の方も安心して学校に出せると思います。よろしくをお願いします。

○丸教育長 ほかにございますか。

——よろしいですか。

それでは、ないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に、事務進行予定について質疑があれば挙手をお願いします。

——よろしいですか。

それでは、ないものと認めます。事務進行予定に対する質疑を打ち切ります。

次に、教育事業全般について質疑があれば挙手をお願いします。

——よろしいですか。

それでは、ないものと認めます。以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

---